

私たちは、御父がしておられることを見て、それをする

2017年2月19日(日) 午後2-4時

「生きるを考える」の集い 第九回目

日曜日の午後、

「天の父なる神の御旨を行うとはどういうことか？」

イエス・キリストは言動を通して、そのことを教えてくださった

ヨハネの福音書のメッセージを通して、ジョン師の情熱あふれるメッセージをお聞きください

第一部

語り手

ジョン・パーカー師 (逐語通訳で聞いていただけます)

ヨハネの福音書のメッセージを通して、「御父に倣ったイエス・キリストの歩み」を学ぶ

第二部

話し合い

御父が話し、しておられることを見て、行うことの意義に焦点を当て、自らの姿勢を吟味する

場所：町田市民文学館ことばらんど

東京都町田市原町田4丁目16-17) 第一、二会議室

「生きるを考える」の集い・シリーズ、 次회가最後です

フルダミニストリーでは、2016年5月から「生きるを考える」の集いを企画し、数学、物理学の第一線で活躍しておられる二人の英国人講師から、この世で与えられた生命、人生をいかに生きるかの貴重なお話を伺ってきました。

ジョン、クリス師は、日本の大学、研究機関に客員教授として招聘され、大学院生、研究生を指導されるかたわら、六箇国以上の国々での学会での発表や指導にも当たられ、大変お忙しい中、私たちの集いをも導いてくださいました。次回3月19日の集いを最後に、英国に帰国されます。

昨今、西暦一世紀のキリストの弟子たちの主にある交わり、「家の教会」(ローマ人16:5ほか)への動きが活発になってきていますが、聖書に則った原始キリスト信仰の復活は喜ばしいことです。お二人の日本滞在中、未信者、あるいは、所属教会のない方々を対象とした「家の教会」での礼拝が毎日曜、お二人の住まいで続けられてきました。

2月26日、3月5日、12日には関心のある方すべてをお招きし、「家の教会」での主にある御交わりがどのように導かれるかを体験していただきたいとのことです。参加ご希望の方は事前に通知の上、上記の日曜日、午前10時に、横浜市営地下鉄「センター北」駅改札口までお出かけください。礼拝は、ジョン、クリス師宅で、10時半からです。

次回の予定 (最新情報はサイトでご確認ください)

日時：2017年3月19日(日) 午後2-4時

場所：町田市民フォーラム4階、第一会議室A

(東京都町田市原町田4丁目9-8 サウスフロントタワー町田内)

講師プロフィール：クリス・ドーン師 (英国ダラム大学宇宙物理学教授、ブラックホール研究者)

ジョン・パーカー師 (英国ダラム大学数学教授)

フルダミニストリー <http://huldahministry.blogspot.jp/>

ヨシエルの会 <http://yosheru.blogspot.jp/>

スライド	概要 2017年2月19日(日)
1	<p>私たちは、私たちの父が行っておられることを見て、それをする</p>
2	<p>イエスは、父が行っておられるのを見たことだけをされた</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「まことに、まことに、あなたがたに告げます。子は、父がしておられることを見て行う以外には、自分からは何事も行うことができません。父がなさることは何でも、子も同様に行うのです。それは、父が子を愛して、ご自分のなさることをみな、子にお示しになるからです。また、これよりもさらに大きなわざを子に示されます。それは、あなたがたが驚き怪しむためです。(ヨハネ 5:19-20) ➤ 「わたしの教えは、わたしのものではなく、わたしを遣わした方のものです。(ヨハネ 7:16) ➤ 「…わたしがわたし自身からは何事もせず、ただ父がわたしに教えられたとおりに、これらのことを話している…(ヨハネ 8:28) ➤ わたしは、自分から話したのではありません。わたしを遣わした父ご自身が、わたしが何を言い、何を話すべきかをお命じになりました。わたしは、父の命令が永遠のいのちであることを知っています。それゆえ、わたしが話していることは、父がわたしに言われたとおりを、そのまま話しているのです。」(ヨハネ 12:49-50)
3	<p>イエスは、ご自分が神からの方であることを人々が信じるように、父のみわざを行われた</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ もしわたしが、わたしの父のみわざを行っていないのなら、わたしを信じないでいなさい。しかし、もし行っているなら、たといわたしの言うことが信じられなくても、わざを信用しなさい。それは、父がわたしにおられ、わたしが父に在ることを、あなたがたが悟り、また知るためです。」(ヨハネ 10:37-38) ➤ ラザロをいのちによみがえらせられて 「父よ。わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします。わたしは、あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることを知っておりました。しかしわたしは、回りにいる群衆のために、この人々が、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じるようになるために、こう申したのです。」(ヨハネ 11:41-42)
4	<p>イエスが行われたことを、私たちも模範とすべきである</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行うわざを行い、またそれよりもさらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです。(ヨハネ 14:12) ➤ しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。御霊はわたしの栄光を現します。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。父が持つておられるものはみ

	<p>な、わたしのものです。ですからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに知らせると言ったのです。</p> <p>(ヨハネ 16 : 13-15)</p>
5	<p>これは私たちの経験だろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 私たちは、父が行っておられるのを見ることだけをするだろうか？ 私たちは、父が話しておられるのを聞くことだけを語るだろうか？ ➤ 私はそのようにしたいが…実際にはそうしていない自分に気づく ➤ それは、パウロの経験でもなかった <p>私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。</p> <p>私は、自分でしたいと思う善を行わないで、かえって、したくない悪を行っています。(ローマ人 7 : 18-19)</p>
6	<p>私たちはなぜ、私たちの父が行われることをしないのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ パウロは『ローマ人への手紙』の中で、私たちは罪深い者で、この罪の性質が、自ずと私たちの行動を決定する、と説明している ➤ ガラテヤ人は、律法主義によってこのことに陥った <p>あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。あなたがたはどこまで道理がわからないのですか。御霊で始まったあなたがたが、いま肉によって完成されるというのですか。(ガラテヤ人 3 : 2-3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 神のわざを、私たち自身の考え、私たち自身の知恵、私たち自身の方法を用いて行おうとすることは、私たちにとっては大変魅力的である <p>しかし、これが本当にイエスに従うということだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 私たちの文化は、自分自身の考え、知恵、方法を用いるようにと私たちに言う <p>私たちは周りの文化によく影響される</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 往々にして私たちは、父が行われることをしないが、それは、父が望んでおられることを知らないからである
7	<p>短い幕間：私たちの動機について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 私たちは恵みによって救われている 私たちの行為によってではなく、 ひとえに、私たちには不相応な神の好意によって ➤ 私たちはすでに完全に愛されているので、 たとえ私たちが神にもっと従うとしても、 神が今以上に私たちを愛してくださることはないだろう ➤ たとえ私たちが神の望むことを何もしなくても、 私たちに対する神の愛は変わらないであろう

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 私たちの父が行い、言われることに従うことを私たちが望むのは、父に敬意を表し、喜ばせ、栄光を帰したいからである
8	<p>私たちの父は何をし、何を話しておられるのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ イエスは、父が行い、話しておられることをいつも知っておられたようである ➤ イエスは、私たちもご自身が行われたことをすることができる、聖霊が私たちを導かれる、と約束された ➤ おそらく、私たちは求めないので、知らないのかもしれない！ ➤ 実際、私たちは、聖書を通してすでに多くのことを知っている ➤ たといこのことを知っているとしても、私たちはどれほど「わたしの父は何を行い、話しておられるだろうか？」と、意識的に尋ねているだろうか ➤ 私たちがこう問いかけるなら、答えが得られると、私は信じる ➤ おそらく、聖書のある箇所が思い浮かぶことだろう ➤ 私が話していることは、私たちの考え方を変える方法である ➤ もし私たちが考え方を変えるなら、私たちのすることが変わるであろう
9	<p>主のステップで：イエスだったら、どうされるだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ これは、チャールズ・モンロー・シェルドンのクリスチャン小説の表題で、1896年に初版が発行された ➤ この書の主人公は、会衆に、何かをする前に「イエスだったら、どうされるだろうか？」と自問するように、と語る牧者である ➤ このことで、会衆の行動は完全に変わり、驚くべき結果に導かれた ➤ この書は、私たちに、自分自身と、私たちがなぜそうするのかの理由を吟味するようにと、促す
10	<p>話し合いのための質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 私たちは、私たちの父が何をしておられるかについて、意識的に問い求めているだろうか？ ➤ 私たちは、父が私たちのしていることに何とっておられるかを、どのように認識するのか？ ➤ もし私たちに、父が話し、しておられることが分かるなら、私たちはすることを覚えるだろうか？ ➤ もしそうであれば、それはどのように私たちを変えるだろうか？ ➤ 今、私たちの父は何を話しておられるのだろうか？ ➤ 今、私たちの父は何を行っておられるのだろうか？